

「新型コロナ緊急事態の先へ」

この日曜日、東京都で今日新たに新型コロナウイルスに感染した人は72人、13日ぶりに1日の感染者数が100人を下回りました。私たちとしては引き続き、油断することなく、「STAY HOME」、密集・密着を避け、人との接触をできるだけ減らした生活を心がけていきましょう。



先日、パリ在住の作家である辻仁成（つじひとなり）氏による記事を目にしました。外出制限下のフランスで、4月13日マクロン大統領は5月11日までさらに4週間の期間延長を国民に向けて宣言しました。その先には「ロックダウンの解除」が待っていることにも言及しました。人々にはうっすらとした光が差すとともに、日常生活と経済活動を取り戻すための長いリハビリ期への忍耐をも感じ取らせたようです。辻氏は息子さんと二人暮らし。毎日一緒に料理をし、健康維持のためにジョギングを欠かさないとのことです。息子さんは学校が閉鎖されてもリモート教育下でスケジュールをこなし、サーバーの中で仲間と交友を深めています。辻氏は「この宇宙船は大きなミッションを持って火星に向かっていているのだ」と喩えます。アパルトマンは「宇宙船」であり、毎日の料理は「共同作業」、ジョギングは「宇宙遊泳」、買い物は「船外活動」。父と子は二人、生き残るために互いに支え合い、強い連帯感を持ち、結束を新たにします。人類は百年に一度のパンデミックと遭遇してしまったのです。かつての日常を奪われた市民は「生活を失わない」ための新しい価値観を見出しつつあります。これこそ「希望」と呼んでもいいのではないかと、辻氏は述べています。

今、確実に姿を変えつつある人々にとっての日常、社会が落ち着きを取り戻した時に現れる新たな制度、枠組み、価値観について思いを馳せました。じっと耐えることも大切です。しかし、今後起こるであろう変化を受け止め、吸収するために、内に籠る現在の時間の中から、次へのエネルギーを養っておく必要もあるかと考えた次第でありました。

2020.4.28 松田晴美